

オープンセミナー「教えて！障害基礎年金」を開催しました

理事長 長谷川 美智代

9月27日(土)にオープンセミナー「教えて！障害基礎年金」を開催しました。大阪市内にお住いの学齢期のお子さんを持つ若い保護者の皆さんに、大阪手をつなぐ育成会のことを知ってもらうため、2年前から始めたオープンセミナーも今回で5回目となりました。今回の「障害基礎年金」については、これまで実施したアンケートでも、セミナーで取り上げてほしいテーマとして希望される方が多かったです。



当日は、25名の参加があり、大半が小学生～高校生のお子さんがおられる保護者の方々でしたが、学校を卒業され、近々、障害基礎年金の申請をされる保護者の方や年配の親御さんも参加してくださいました。

最初に全国手をつなぐ育成会連合会の権利擁護センター製作の「教えて！障害基礎年金」のDVDで、障害基礎年金の基本的な解説と障害基礎年金についてよくある質問に座談会形式で答えるQ&Aを視聴していただき、その後、手続きの流れや申請の際に重要な書類の診断書と病歴・就労状況診断書について、医師に依頼する時のポイントや書き方の説明を行いました。

最近、インターネットでも障害基礎年金の申請手続きについての説明動画が、たくさん公開されています。ただ、ある程度知識がある方が見れば、理解できるかもしれませんが、基礎知識がない方にとっては、全育連が作成したDVDの方がずっとわかりやすいと思います。今回のセミナーに参加して下さった方、特にもうすぐお子さんが20歳を迎える保護者の方からは、「内容がとても分かりやすく、申請する前に聞いておいて良かった」との声もあり嬉しく思いました。

最後の質疑応答では、「障害基礎年金を受給していても生活保護はもらえるのか」との質問もあり、障がいのある子をもつ親にとって、わが子の将来のお金と生

活に関する不安な思いは、どの年代であろうと同じなのだ」と改めて思いました。

10月度 会員学習会を開催しました

副理事長兼事業統括 上宮 俊一

「人生会議」は、多くの方にとっては聞きなれない言葉ではないでしょうか。調べてみると、静岡県看護師さんが名付けられたようです。医療従事者として大切なことは「患者さんが満足のいく治療や最期を迎えられたかどうか」だと考え、集中治療室での勤務を通して、「患者さんともっと終末期における希望を話しておけたら」と思い、「患者さんが医療従事者とだけではなく、家族会議や食卓の場など、身近な場面でも話し合えるくらい浸透して欲しい」という強い思いを込め、「人生会議」という言葉にされました。「人生会議」は1980年代にアメリカで広がり始めたACP(アドバンス・ケア・プランニング)の和訳として用いられ、現在は日本でも厚生労働省や医師会を中心に普及活動が行われています。

人生会議の具体的な意味は「自らが希望する医療やケアを受けるために大切にしていることや望んでいること、どこでどのような医療やケアを望むかを自分自身で前もって考え、周囲の信頼できる人たちと話し合い、共有しておく」ことです。この人生会議を重ねることにより、あなたが自分の気持ちを話せなくなった時に、あなたの心の声を伝えるかけがえのないものになるという考え方です。

よく聞く「エンディングノート」は、自分に万が一のことが起こった時に備え、周囲の人に伝えたいことを書き記すものですが、「人生会議」はその内容を直接話し合い、共有するものです。

今回の学習会では、もしバナマイスターの大中湖月様に「もしバナカード」を使ったワークショップを指導してもらいました。



【もしバナマイスターの大中湖月様】